

令和八年度企画展

長崎市歴史民俗資料館

# 戦争と暮らし展



陶製防砂袋

2026.6.16<sup>火</sup> ▶▶▶ 8.30<sup>日</sup>



衣料切符



防空頭巾ともんぺ

入館 無料 開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)  
休館日 月曜日

長崎市歴史民俗資料館 (平和会館地下1階)  
〒852-8117 長崎市平野町7番8号 TEL&FAX : 095-847-9245



歴史民俗資料館 ホームページ

令和8年度 長崎市歴史民俗資料館

# 戦争と暮らし展



国防・防護団の記章(長崎)

昭和元年(1926)から令和8年(2026)で満100年を迎えます。

昭和時代は、想像を絶する苦難や劇的な復興を経験した激動の時代でした。特に昭和12年(1937)の日中戦争開始以降、第二次世界大戦の勃発、そして太平洋戦争と、人々は戦時体制下での暮らしを余儀なくされます。日々の生活にも、戦争の影が落ちていき、戦局が厳しくなるにつれ、その影は日に日に色濃くなっていきました。

人々はさまざまな統制のなか、「欲しがりません勝つまでは」というスローガンのもと、銃後を支えるため、質素・儉約の暮らしを強いられました。米や麦の配給制に始まり、日常生活に必要な品物も手に入りにくくなっていき、代用品や代用食が盛んに作られました。防空訓練や空襲警報、建物疎開、学徒動員など、「非常」の事態が「日常」の生活と隣合わせの暮らしであったといえます。

このたび、当館では、昭和100年を迎える今こそ、戦時下における長崎の暮らしを知り、現代の暮らしとの対比から、平和の尊さを考える機会と捉え、“戦争と暮らし”をテーマに、企画展を開催いたします。

戦時下を生きた人々の暮らしへ思いを馳せるとともに、平和について考えるきっかけとなりましたら幸いです。



勝山国民学校  
戦時校舎の看板



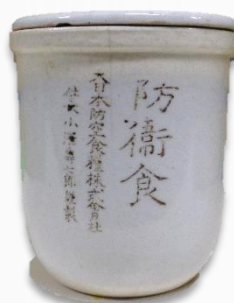
灯火管制用の電球

灯りが漏れないように  
下だけ照らすようになっている

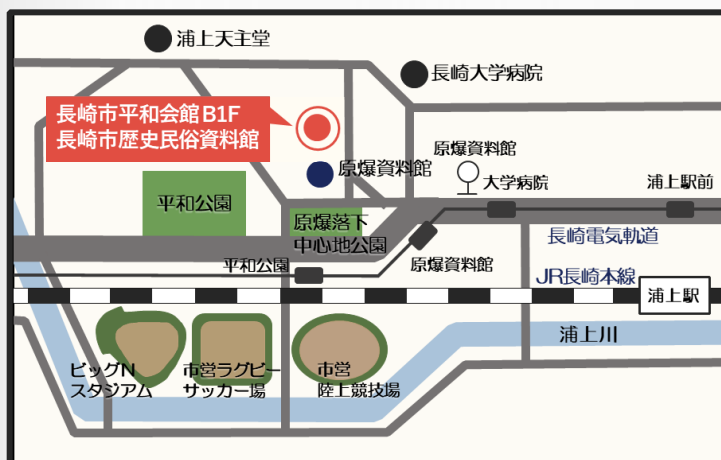
すいば(俗名ぎしぎし)…若葉をゆでてお浸しや和え物に



『野生食用植物図説集』



防衛食容器



## アクセス

路面電車・バス停留所「原爆資料館」  
ともに下車徒歩5分

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号(平和会館地下1階)

TEL & FAX : 095-847-9245

E-mail : rekimin@city.nagasaki.lg.jp